

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4071401865 | | |
| 法人名 | 有限会社 タワラ | | |
| 事業所名 | グループホーム 第二幸せの枝 | | |
| 所在地 | 〒814-0175 福岡県福岡市早良区田村7丁目24-84 092-874-3185 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年09月12日 | 評価結果確定日 | 平成24年10月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんが毎日穏やかに過ごされて、健康管理が出来感染症などの病気が開設以来1人もいなかったし肺炎などの感染もなく健康管理が出来ている事。又職員の入替わりが少なく皆明るい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室見川の自然環境に恵まれた住宅地の中に、グループホーム「第二幸せの枝」がある。住宅改良型の家庭的な雰囲気のある玄関周りは、季節の花々が咲き、利用者が丹精込めた畑で採れる旬の野菜が食卓を飾り、楽しい食事を利用者と職員が満喫している。常勤看護師と介護職員間のチームワークは素晴らしく、利用者の細かい状態にも気を配り、優しい言葉や声かけは、利用者との深い信頼に繋がり、家族の安心感に結び付いている。利用者と職員は、小学校の運動会、地区の清掃活動、敬老会等に参加し、親しくなった近くの方と、散歩時に声を掛け合う等、開設9年目を迎え、活発な交流が始まっている。また、利用者の健康状態や、日々の過ごし方を「しあわせ通信」に載せて家族に送付し、家族との信頼関係も深まっている「第二幸せの枝」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 平成 24年10月12日 | | |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:20,40) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | <p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p> | <p>毎朝の申し送り時に全員で理念を復唱し、利用者の関わりの際、意識をして取り組む事に努めている。</p> | <p>「心のリハビリ」「引き出すケア」「地域の中で重度化に向けた対応」をホーム独自の理念に掲げ、見やすい場所に掲示し、職員は毎朝唱和し、意識付けを行なっている。利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの取り組みは、利用者と職員の深い信頼に繋がり、「ここが私の終の住処」と思ってもらえるよう日々努力している。</p> | |
| 2 | 2 | <p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p> | <p>日課の散歩時など地域の人達と挨拶、立ち話しなどをし皆さんに理解をして頂くように努めている。以前に比べ随分理解者が増えているように感じている。</p> | <p>開設9年目を迎え、グループホームの存在が少しずつ地域の方達に理解され、地域の夏祭りや清掃活動に参加したり、苑庭で行われる地域交流会や花火会に近所の方が参加される等、管理者や職員の努力により、地域との交流は深まっている。苑庭で採れた枇杷や柿、野菜等のおすそ分け等、日常的な近所付き合いも行われている。</p> | |
| 3 | | <p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p> | <p>地域の行事などに参加するように心掛けているが、利用者さん達の認知が進んでいるので行事への参加も減りつつあるが理解はして頂いている。</p> | | |
| 4 | 3 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>事業所の報告や会議内容を参考にし、話し合いなどをおこなっている。地域の情報なども頂いている。</p> | <p>2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、町内会長、地域住民、いきいきセンター職員、ホーム職員が参加し、意見、質問、要望、情報等が出され、ホームからは状況報告や、重度化に伴い年間行事が思うように出来ない事や、防災時の避難場所についての課題を挙げ、活発な意見交換を行ない、ホーム運営に反映させている。</p> | |
| 5 | 4 | <p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>分からない事などその都度相談しながら対応をしている。</p> | <p>管理者は、行政担当窓口で資料や、困難事例等の報告に出向いたり、電話連絡にて常に連携を図っている。また、運営推進会議にいきいきセンター職員が出席し、ホームの実情を理解してもらっている。</p> | |
| 6 | 5 | <p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>事例はないが、必要性を認めた時には皆と相談しながら取り組んで行こうと考えている。</p> | <p>身体拘束が与える影響を、職員研修で理解してもらい、拘束をしないための介護サービスの在り方を職員間で話し合い、職員同士の見守りをしながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p> | |
| 7 | | <p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>同上</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要とする利用者がいないし契約時に説明をし家族にまかせている。職員の研修(外部)は行ってもらっている。 | 権利擁護の制度に関する外部研修を受講した職員が、資料やパンフレットを持ち帰り、職員会議の中で報告し、職員全員が理解し、利用者や家族が制度を必要とする時に、いつでも支援出来る体制を整えている。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にケア内容の説明は行っている。重度化や週末期などになれば、こまめに家族、Drなど連携をとり話しあっている。 | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会、面会時に不満、希望など聞いて、月回の幸せ通信でもお知らせをし、問題点があれば会議で話しあっている。 | 利用者の思いを聴く「幸せ会議」、家族と話し合う年2回の家族会や面会時等にコミュニケーションを取る事を心がけ、意見や要望を聴き取っている。また、毎月の健康状態、生活状況、予定、介護目標を各担当職員が記載した「しあわせ通信」によるきめ細やかな報告は、家族に喜ばれ、信頼を得ている。玄関に意見箱を設置し、いつでも意見や要望が言いやすい環境を整備している。 | |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | カンファ時に意見、不満など言ってもらっている。随時聞くようにしている。 | 毎月定期的開催する職員会議には、夜勤勤務以外の職員全員が参加し、意見や要望、提案等、活発で有意義な会議になっている。出された意見は、出来るだけ反映出来るように努力している。また、管理者は、日頃から個人的に職員の思いを聴き取る努力をし、風通しの良い職場環境を目指している。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で行かせる環境作りに心掛けている。職員同士の人間関係の把握にも努めている。 | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 性別、年齢は排除していないが、体力的な問題は考えている。力仕事(入浴、排泄介助)などが多いので無理がある。職員の能力を充分に発揮できるように支援して行きたい。 | 職員ロッカーや、休憩室、休憩時間を確保し、希望休や勤務体制等柔軟に対応し、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。また、研修参加や資格取得に向けても積極的に呼びかけ、折り紙等の創作や園芸、踊り等、職員が能力を充分に発揮し、向上心を持って働けるよう支援している。職員採用は、年齢、性別の制限はなく、職員のやる気や、人柄を優先している。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 研修会に参加し、勉強会など行っている。 | 人権学習会に参加し、内部研修で職員全員が、利用者の人権を守るためのケアの在り方を検討し、利用者が安心して安全に暮らせるグループホームを目指し、日々努力している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間に行われている研修に交代での参加をしてもらっている。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修仲間などとの意見交換した事を話してもらいサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 何が求められているかの把握に努め、不安を理解しようと工夫をしている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時にいつも要望などを聞き話をしている。利用者さん達は皆長い人達なので、今ではご家族に信頼して頂いている。いい関係になっていると思う。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、本人、家族の思いを確認し対応に努めている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 傾聴、対話ケアにて話しを引き出し話しの糸口を掴み本人が話しやすいようにして行く。職員は命令、拒否などをしない事を前提としているが促し、誘導など努めている。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の様子を家族に伝える事で、家族の思いがわかり、本人を支えていく為の協力関係を築いて行く。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 努めているが、認知症が進み利用者さんのほうが分からなくなられ、知人、友人の方から疎遠になられている。家族も面会の足が遠のいている。 | ホームで暮らす年月が長くなるにつれ、友人、知人、家族の面会が少なくなり、利用者のこれまでの馴染みの関係継続が困難になりつつある中、ホームで出会った職員や利用者同士、そして地域の方との、新しい馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が促し介入、個性に応じた対応をしている。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了しても、家族の訪問があり、その都度話し相手などを行っている。相談や支援もしている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の暮らしで声掛け、促しにより何がしたいのかの把握に努めているが、現在認知症がすすんでいる為、把握が難しい。今までの経緯で対応している。家族には理解して頂いている。 | 職員の異動がほとんど無いため、利用者との関係であり、利用者の意向の把握に活かされている。利用者の重度化で、思いや意向の表出が困難な場合には、職員が寄り添い、利用者の表情や独り言等から思いを汲み取り、過去の記録を読み返し、家族に相談する等して、少しでも利用者が喜ぶ事に繋がる支援に努めている。 | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族は本人の生活歴などは最初は詳しく話されないが面会時など家族の話から以外な事を聞いたり、本人がボツリと話された事などで把握に努めている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムなど理解できている。 | | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意見などカンファ時に話しあっておりその結果を介護計画に反映している。利用者に変化が見られたりした時にはその都度見直している。 | 利用者や家族の要望を聴き取り、カンファレンスで職員間で話し合い、介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化時には、家族や医師と連携を図り、介護計画をその都度見直している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 変化などはケア記録に記載して、毎、朝夕の送りなど職員にも把握してもらっているし計画の見直しにつなげている。 | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況には臨機応変に対応している昼食の面会時には家族にも食事の提供など行っている。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問美容、訪問歯科など介護保険以外の情報も把握し家族に情報提供をしている。 | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族や本人の希望におおじている。協力医のほかかかりつけ医での診療が受けられるようにしている。必要に応じて受診の付き添いなどを行っている。 | 利用者や家族の希望を聴き、かかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関による月2回の往診と3名の看護師、介護職員によるきめ細やかな見守りで、利用者の変化を見逃さず、充実した健康管理体制がある。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が3名勤務をしているので、状態変化など、早期発見につなげている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は家族と情報交換をしている。職員も度々見舞いに行く。時には汚染衣類などの洗濯などお手伝いしている。 | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人、家族、主治医との話し合いを重ね随時意思確認を行っている。終末期の事も家族の希望を聞き本人の苦痛を取り除くだけではなく、家族の希望が多い。説明は充分にしている。 | 入居時に、ホームで出来ること、出来ない事を説明し、その後も状態変化に応じてその都度話し合いを重ね、利用者や家族の思いを確認しながら方針を共有し、利用者、家族にとってより良い方向に向けての支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | カンファ時に応急処置などの話しあいはしている。 | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を行い消防署などの指導をうけている。時には地域住民の参加も呼びかけている。なかなか参加して頂けない。 | 消防署の協力を得て防災訓練を実施し、非常口、避難経路、避難場所の確認をしながら、平常心で対応出来るよう真剣に訓練を実施している。また、夜間を想定した訓練も実施し、非番の職員や近隣住民との連携等、利用者が安全に避難出来る体制を目指している。非常災害時に備えて非常食の準備も整っている。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員も変わらず利用者の一人ひとりの性格を熟知しており声掛け、促しに心掛けている。 | 職員の離職者がいないので、利用者と職員は馴染みの関係で深い信頼関係で結ばれている。職員は、利用者の自己決定、自己選択を最優先に、ゆっくり時間をかけている。また、個人記録の保管や、職員の守秘義務の徹底も図られている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に合わせた言葉掛けを行い、表情などを見て判断をしている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはあるが1人1人のペースにあわせた対応を心掛けている。体調、場所など見ながらの対応をしている。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 声掛け、促しよりの支援を心掛けているが殆ど職員がしてあげる事が多い。理、美容などは本人の希望(髪染め、パーマ)、家族の了解を得ている。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員、利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りに努めている。利用者と一緒にってきた畑の野菜など食卓にあげ話題の提供にも心掛けている。 | 利用者と職員が丹精込めた畑で採れた野菜を使用し、調理担当の職員が、工夫しながら愛情を込めて調理している。一つのテーブルを利用者と職員が囲み、笑顔で声かけしながら同じ食事を食べている様子は楽しそうで、家庭的な雰囲気である。職員は、出来るだけ利用者一人ひとりのペースを大切にしながら見守り、さりげなく食事介助をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体調にあわせ食事量などの把握くをし好き嫌いなどの改善に努めている。無理強いはない。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨き、入れ歯の洗浄はしている。週に1回の歯科往診で口腔内の点検、ケアなど行っている。肺炎予防につながっている。 | | |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | リハビリパンツを使用している人達でも2時間毎のトイレ声掛け誘導をしている。介助で立てる人達も、時間帯に応じてトイレ誘導に努めている。 | 職員は、利用者の習慣や排泄チェック表で状態を把握し、トイレでの排泄の支援を心掛けている。また、日中は出来るだけトイレ誘導を心がけ、無理強いはない声かけを行っている。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックを毎日している。予防の為、おやつ水分摂取など心掛けている。 | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一応、曜日、時間帯は決めているが、本人が希望すれば、毎日お風呂は沸かしているのを入れるようにしている。汚れがひどい時など清潔管理の為入れている。 | 入浴は週3回としているが、利用者の健康状態や気分を優先し、曜日や時間を変更したり、毎日入ることも可能である。また、利用者の入浴が楽しいものになるように工夫を凝らしている。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後の仮眠は健康にもよいのでして頂いているが仮眠できない人には好きな事をして頂いている。昼夜逆転が起こらないように昼間は休憩時間以外は活動をしてもらっている。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋は職員がいつでも内容確認ができるようにしている。服薬確認を怠らないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事の下準備、食事の後片付け、テーブル拭き、作品作りなどして頂いている。嫌いな事は無理強いはしていない。利用者さんからの要望はないので、職員が意見を聞きながら提供している。 | | |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 幸せ会議などで意見を聞いているが殆どの方が「何処でもいい」などの声しかないのも職員が提供している。家族の誘いがあると同伴で出掛けられる。支援はしている。毎日の日課の散歩も行っている。 | 毎日の散歩や、苑庭の農園の手入れ等、一日に1回は外の風に当たり、気分転換を図りながら、利用者の生きがいのある暮らしに繋げている。また、家族に外出の支援の協力をお願いする事もある。 | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金に対する要望は殆どの方がなく、欲しい物などないと言われている。買い物はパンなんか買いに好きなのを買って頂くのですが、苑に戻ると忘れられている。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀はがき、暑中見舞いなど親しい人に書いてもらっている。職員と一緒に。 | | |
| 54 | 22 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 苑の中から苑庭を見、四季の移り変わりが分かるように工夫をしている。空間にはご自分達で作成された掲示物など飾っている。室温調整などこまめに心掛けている。 | リビングルームから眺める苑庭は、柿、枇杷、金柑の実が生り、利用者が丹精込めた花や野菜が季節毎に育ち、利用者、職員の楽しみになっている。また、月替わりの折り紙の作品、貼り絵や利用者の似顔絵等が沢山飾られ、家庭的で暖かい雰囲気の良い共用空間である。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングに集まり気のあった人とお話をされたりT、新聞を見たりされている。ご自分の席が自然と決まっている。たまにウッドデッキに出て苑庭を眺められたりされている。 | | |
| 56 | 23 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に馴染みの家具、など持参してもらっている。特にお湯のみ、お箸、など持参してもらっている。 | 清潔で明るい居室は、利用者の家族と協力し、馴染みの家具や仏壇、使い慣れた大切な物を持ち込んでもらい、写真や手作りの作品を飾り、利用者が穏やかに落ち着いて暮らせる居室となっている。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 環境整備に努めている。トイレ、自室など目印をしている。 | | |